

# 甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度秋入学・2019年春入学  
一般入学試験（B日程・8月18日分）

## 試験科目：民事訴訟法

### 1. 出題趣旨

設問1は、事実審の口頭弁論終結時が判決効の基準時として意味をもつことに触れ、既判力による遮断効などの言及することを求める問題である。

設問2は、争点および証拠の整理手続として現行法が導入した弁論準備手続の特徴などを問う問題である。

設問3は、送達の意義および職権送達主義、交付送達の原則、公示送達などに触れることを期待した問題である。

### 2. 採点実感

設問1については、事実審の口頭弁論終結時がなぜ判決効の基準時とされているのか、その意味を全く説明できていない答案が4割程度あった。

設問2については、争点および証拠の整理手続の意義を説明したうえで、弁論準備手続の特徴を述べることを期待していたが、条文の引用にとどまっている答案が多かった。

設問3については、そもそも送達とはどのような制度かについて全く触れないで、各条文を引用し個別の問題に言及している答案がほとんどであった。

### 3. 学習方法

基本書に記載されているような各制度。手続の意義については正確に記憶し記述できるようにしておく必要がある。